様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年 6 月 20 日現在

機関番号：３４３０３
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22520378
研究課題名（和文）漢民族と少数民族の語り物に関する比較研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of the Oral Literature of the Han People and Ethnic Minorities in China

研究代表者　手塚　恵子（TEZUKA KEIKO）
京都学園大学・人間文化学部・教授
研究者番号：60263183

研究成果の概要（和文）：　本研究は、文献研究と中華人民共和国広西壮族自治区におけるフィールドワークを併用し、中国の民衆に広く愛好されてきた語り物文芸のひとつである「梁三伯与祝英台」の諸テキスト（漢族による漢語のもの、少数民族による漢語のもの、少数民族による少数民族語のもの）を収集し、それらの関連性を分析することによって、中国の文化的多様性と画一性を検討することを試みたものである。

研究成果の概要（英文）：This study examines cultural diversity and uniformity in the People's Republic of China by analyzing the relevance of various versions of "Liang Shanbo and Zhu Yingtai," a type of oral literature widely enjoyed by the Chinese. Specimens of this type of literature were collected through document research and fieldwork in Guangxi Zhuangzu Autonomous Region in China. The specimens include those in the Han language that originated with the Han people and ethnic minorities, and those in ethnic languages that originated with ethnic minorities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論
キーワード：文化人類学・口承文芸・中国文学・壮族、語り物

１．研究開始当初の背景

米国の中国研究を代表する分野として、民衆文化の研究がある。これは中国の文化的多様性と画一性を検討するものであり、なかでも中国社会を結合させる紐帯になっているものとして、「語り物（歌劇や説唱文学）による誘導」と「儀礼の規格統一」に注目して、研究が進められてきた。前者の代表的な成果として、Popular Culture in Late Imperial China(David Johnson, Andrew Nathan, and Evelyn Rawski,eds :University of California Press 1985) 後者の代表的な成果として、Death Ritual in late Imperial and Modern China(James L.Watson and Evelyn Rawski,eds :University of California Press 1988)がある。このように、米国における民衆文化の研究は、文献研究とフィールドワークを併用するところに特徴

がある。

日本においても、中国の文化的多様性と画一性を検討する研究は、文献とフィールドワークを併用する傾向が強い。この領域の研究には、漢族を対象としたものに、田仲一成（『中国祭祀演劇研究』東京大学出版会、1981年）や渡邊欣雄（『漢民族の宗教―社会人類学的研究』、第一書房、1991年）などの研究があり、少数民族と漢族の間の多様性と画一性を論じたものに、塚田誠之らの西南中国の少数民族についての研究（塚田誠之編『民族の移動と文化の動態―中国周縁地域の歴史と現在』、風響社、2003年）などがある。

しかしながら、日本では、漢族研究であれ少数民族研究であれ、中国社会を結合させる紐帯として、「語り物（歌劇や説唱文学）による誘導」に注目する研究は、田仲一成を除くと、それほど活発ではない。

本研究の代表者は、漢化の進んだ少数民族とされる壮族を対象に、その民族文化および社会構造を研究してきた。本研究の代表者の主たる関心は、中国の少数民族と漢族の間に見られる文化的多様性と画一性の探求にある。例えば、壮族の死者儀礼とそこでうたわれる挽歌を分析することによって、壮族と漢族との間には、葬式においては儀礼の規格統一が見られる一方、埋葬に関する観念には壮族固有のものがあることを明らかにした「壮族の哀悼歌１・２」（『アジア民族文化研究』5号、6号、2006年、2007年）、あるいは広東漢族の道教祭祀儀礼と少数民族の民間宗教祭祀儀礼との中間的な位置にある壮族の村落祭祀を分析することによって、漢族の道教祭祀と少数民族の民間宗教祭祀における共通点と差異を浮かび上がらせた「儺と醮を繋ぐもの」（『日本文化の人類学/異文化の民俗学』、法蔵館、2008年）などを、その成果としてあげることができる。

その一方で、本研究の代表者は壮族の短詩型定型詩（掛け歌）の録音音源からテキストを作成し、その象徴表現や押韻の仕組みを分析してきた。『中国広西壮族歌垣記録』（大修館書店、2002 年）は、その成果の一つである。

本研究の代表者は従来から、口承文芸のテキストを用いて、中国の少数民族と漢族の間に見られる文化的多様性と画一性を探求したいと考えていたが、本研究の代表者自身が録音収集した語り物（歌）テキストがある程度の量になり、また漢族に伝承される語り物（および歌）の諸本を収集できる目途が立つまで、この研究計画は先送りせざるを得なかった。幸い、近年、テキストを徐々に収集できるようになったので、この研究計画を実施しようと考えた。また 2007 年に、中国の民衆文化に関する研究を主導したデビッド・ジョンソン教授の大学院演習（カリフォルニア大学バークレイ校　中国研究所）に、客員研究員として参加し、研究上の諸問題について議論する機会を得たことも、本研究をはじめる契機のひとつとなった。

２．研究の目的

本研究は、文献研究とフィールドワークを併用して、中国の文化的多様性と画一性、なかでも漢族と少数民族の間に見られる、文化的多様性と画一性を検討するという研究の全体構想の一部である。そのなかにあって、本研究における具体的な目的は、中国の民衆に広く愛好されている語り物文芸の演目のひとつである「梁山伯と祝英台」の諸テキストを比較検討し、テキスト間の関連性を明らかにすることである。

（１）研究期間の第一段階では、「梁山伯と祝英台」の諸テキスト（漢族による漢語のもの、壮族による漢語のもの、壮族による壮語によるもの）を収集し、それらを話型や話素によって、何らかの系統別に分類できるかを検討する。

（２）研究期間の第二段階では、「梁山伯と祝英台」の諸テキストを電子テキスト化し、それをフォミュラグループおよびテーマ（場面）に分解し、データベース化する。またこのデータベースをもとに、フォミュラグループ間およびテーマ間の関係性を抽出する。語り物系の芸能では、演者は、物語の全てを暗記するのではなく、粗筋のみ覚え、場面ごとの語りは、自分の記憶しているフォミュラグループ群から、適切なものを引き出して語る。それ故、テキスト間の関連性を明らかにするためには、物語の話型や話素の比較だけでは不十分であり、フォミュラグループ間およびテーマ間の比較を行う必要がある。

（３）研究期間の第三段階では、「梁山伯と祝英台」の諸テキスト間の関連性を明らかにしたうえで、漢族と壮族のテキストの間に画一性は見られるのか、あるとしたらそれは何か、またどのような形で文化的多様性が存在しているのかを検討することを通じて、少数民族と漢族の文化を結びつける紐帯とは何かを探る。

３．研究の方法

（１）テキストの収集

中国、日本、米国の図書館等に所蔵されている「梁山伯と祝英台」のテキスト（漢族による漢語のもの、壮族による壮語によるもの）を複写、あるいは古書籍店で購入することによって、テキストを収集するとともに、広西壮族自治区武鳴県および柳州市で、地元の歌い手に「梁山伯と祝英台」をうたってもらい、それを書き起こすというかたちで、テキストを作成する。

（２）テキストの電子データ化

上記の方法で収集した「梁山伯と祝英台」のテキストを電子テキスト化する。

（３）作成した電子テキストを比較することによって、「梁山伯と祝英台」の諸テキスト間の関連性を解明する。

４．研究成果

今回の研究による主な研究成果は、大きく三点に分けることができる。

（１） テキストの収集

中国、日本、米国の図書館等に所蔵されている「梁山伯と祝英台」のテキスト（漢族による漢語のもの、壮族による壮語によるもの）を複写、あるいは古書籍店で購入することによって、テキストを収集するとともに、広西壮族自治区武鳴県および柳州市で、地元の歌い手に「梁山伯と祝英台」をうたってもらい、それを書き起こすというかたちで、テキストを作成した。

収集したテキストは以下の通り。

(A) 漢語出版本

『重訂梁山伯牡丹記南音』

1953『梁山伯與祝英台』人民文芸出版社

1953『梁山伯與祝英台』長安書店出版）

1955『梁祝故事説唱集』上海文芸公司

1956『梁山伯祝英台山歌』広東人民出版社

1962『梁山伯与祝英台』上海文芸出版社

1985『梁祝故事説唱集』上海古籍出版社（1958 中華書局を重版）

1999『梁祝文化大観』Ⅰ～Ⅴ中華書局（各々30、31、28、102、97 種のテキストを含む）

2001『梁祝的伝承』中華書局

2007『梁祝文庫』中華書局ⅠⅡ（各々31 種のテキストを含む）

2007「梁山伯与祝英台」『柳州民歌山歌集録』柳州市

2009『漢上宦文存梁祝戯劇』（18 種のテキストを含む）

(B) 壮語漢語出版本

1956「梁山伯祝英台」『武鳴土語』

2006「梁山伯与祝英台」『平果瞭歌客歌集』広西民族出版社

(C) 手書き油印印刷本

1986『梁山伯与祝英台壮族民間叙事詩』広西民間文学研究会

1986『梁山伯与祝英台壮族民間叙事詩勒脚体』広西民間文学研究会

1987『梁山伯与祝英台融水苗族』広西民間文学研究会

(D) 壮語書写本

1963「梁山伯与祝英台　武鳴府城本」

(E) 書き起こしテキスト

1993「梁山伯与祝英台武鳴羅波壮語本」

1995「梁山伯与祝英台武鳴羅波壮語本」

2012「梁山伯与祝英台　柳州壮語本」

2013「梁山伯与祝英台武鳴羅波壮語本」

2013「梁山伯与祝英台　柳州漢語本」

（２）テキストの電子データ化

収集したテキストのうち、(A) 漢語出版本および(C) 手書き油印印刷本については、『重訂梁山伯牡丹記南音』を除き、全文を電子テキスト化した。

(B) 壮語漢語出版本、(D) 壮語書写本、(E) 書き起こしテキストについては、電子テキスト化を行うにあたって、大きな障壁があった。古壮字の扱いである。(B) の壮語漢語出版本は、古壮字、現代壮文字、漢字、IPA の 4 種類の文字で記述されている。また (E) の書き起こしテキストについては、(B) の記述法に倣って作成したため、(B) と同様に 4 種類の文字で記述されている。(D) の壮語書写本は古壮語によって記述されている。

壮語はチワン・トン語族チワン・ダイ語派に属する言語である。発音や文法から見ればタイ語やラオス語に近接した言語である。中国政府の認定した壮語の書き言葉は現代壮文であるが、民間には漢字系の文字である古壮字が流通している。古壮字はベトナムのチュノムと同様に、六書を基本原理として造字されており、その歴史が唐代にまで遡るとみられる。

本研究は、文献研究とフィールドワークを併用して、中国の文化的多様性と画一性、なかでも漢族と少数民族の間に見られる、文化的多様性と画一性を検討するという目標を掲げている。漢語で語られたりうたわれたりした漢族起源の伝説「梁山伯祝英台」を、タイ語系の言語である壮語に移し替えてうたったものを漢字系の文字を用いて表記するという事象は、中国の文化の画一性を考える上で興味深い事例であると同時に、一字一字の古壮字の作字の在り方に漢字文化の多様の在り方を見ることができると考え、「梁山伯祝英台」のテキストにおける古壮字の作字の方法を分析の対象に加えることにした。

古壮字の類型は、自作文字と借用文字の二代類型の下にそれぞれ四類型をおく八類型（象形、指示、会意、形成、借音、借義、借音義、借形）をもつものと考えることができる。

自作文字１象形、具体的な事物を簡略に写したもの。２指示、抽象的な事物を表すもの。３会意、二つの漢字を意符として組み合わせて、新たな字を作成したもの。例えば壮字の「𠀤」は「天」と「上」を組み合わせたもので、「上方」という意味になる。４形成、二つの漢字からそれぞれ意符と声符を借り、新たな文字を作成したもの。例えば壮字「𤆬」は、意符である「出」と声符である「悪」を組み合わせたもので、「出る」という意味を持ち、$o{:}k_{35}$とよむ。声符に「悪」が選択されたのは、漢字「悪」の古音の読みが「烏各切」「鐸韻（ak)」(『唐韻』）であり、壮語の「出る」という語の音 $o{:}k_{35}$に近接しているためである。

借用文字１借音、壮語を漢語の音を借りて

表す。仮借、万葉仮名的な用法である。例えば漢字「丕」の古音は「敷悲切」「脂韻（ei)」（『集韻』）であるが、その音は壮語の「行く」という語の発音に pa:i$_{24}$類似した音を持つので、「丕」と書いて、「行く」という意味を表す。２借義、漢字の意味は借りるが、読み方は壮語のままのもの。訓読み的な用法である。例えば漢字の「家」にあたる語を壮語でɣa:n$_{24}$という。そこで漢字の「家」を壮字にそのまま用いて、ɣa:n$_{24}$とよみ「家」という意味を表す。３借音義、漢字の意味と音を共に借りる。漢字「嫁」は嫁ぐという意味で、その発音は『広韻』では「古訝切」「禡韻」である。壮字「嫁」は嫁ぐという意味で ha$_{35}$と発音する。漢字から意味と音（古音）を借りた例である。４借形、漢字の一部を取り去ったり、付け加えたりしたもの。李方桂のいう表意文字に近いもの。壮字「𠀧」は漢字の「有」の一部を欠落させたものを並べたものである。「有るべきものの中がない」ということから、「無い」あるいは「～でない」という意味になる。

2012 年の段階では古壮字をコンピュータで処理することができなかったが、2013 年になって古壮字をコンピュータ上で扱う方法を幸運にも得たので、(B) (D) (E) については、電子テキストを作成する際には、古壮字の類型も併せて記載することにした。

（３）テキスト間の関連

漢族の間で伝承されている「梁山伯祝英台」の標準的なタイプが書承の形で現れたのは、唐代の『宣室志』が初出であろうという。「梁山伯祝英台」は『宣室志』に、次のように記されている。

英台は上虞の祝氏の娘で、男装して遊学し、会稽の梁山伯と同級生となった。山伯の字は處仁である。祝が先に帰郷し、その二年後に山伯が祝の家を訪れ、祝が女子であることを知り、心を奪われてしまう。祝の父母に祝との結婚を申し入れるが、祝は既に馬氏の息子の嫁になることが決まっていた。山伯は鄞県の知事となるが病死し、貢城の西に葬られる。祝が馬氏に嫁ぐために、船で墓所を通りかかると、風が出て進むことができなくなった。尋ねてみると山伯の墓があるという。祝が墓所に詣で号泣すると、地が裂けたので、自ら飛び込んだ。このようにして祝氏もここに埋葬されたのである。普の首相の謝安は、この墓を「義婦塚」であると奏上した。

この後も「梁山伯祝英台」は、各種の「伝奇」に記されたほか、説唱の形で語られたり、演劇の形で演じられたり、民歌の形でうたわれた。むろん書承される以前の形態である口頭伝承としても伝承されており、現在では中国の四大説話のひとつとされている。

本研究で入手した壮族の「梁山伯祝英台」（「梁山伯与祝英台武鳴羅波壮語本」1993）は、掛け合いの形でうたわれた五言四句の壮語による山歌である。その筋書きは、おおよそ次の通りである。

梁山伯は羅山の学堂へ進学しようとしていた。女が学堂へ行くことは認められていなかったが、祝英台は家には他に男子がなく、文化的な素養の無い者ばかりでは何かにつけて不便であると考え、男装して進学することにした。途中山伯も同じ学校に進学することを知り、同行することにした。師匠の妻はこの二人の仲のよいことを知り、同室に住まわせた。山伯の家庭は貧しかったが聡明で、常に英台の勉学を助けていた。英台も何かわからないことがあると山伯に尋ねるようになり、いつしか山伯に恋愛感情を持つようになった。英台がまだ卒業しないうちに、欲に目がくらんだ父親が、英台を大金持ちの馬氏の息子に嫁がせることにし、重病であると偽って、英台を実家に呼び戻す。このことを知った山伯は恋煩いから病を発し死んでしまい、その墓は十字路に造られた。英台の花嫁行列がその場所を通りかかり、英台が墓に詣でると俄に天がかき曇り、雷雨が降ると墓が開いたので、英台はその中に飛び込み共に埋葬された。

両作品は 1000 年以上の時間を隔てており、また言語も漢語と壮語という異なるものであるが、男装した女子の進学、同級生との恋愛、女子の結婚による恋愛の破綻、男子の死と埋葬、花嫁行列に生じた怪異といったモチーフを共通して持っている。

ここに挙げて比較したのは、漢語で書かれた説話と壮語でうたわれた山歌である。詳細に比較していけば、ジャンルの違い（説話、語り物、演劇、歌）による差異が、言語による差異よりも大きい部分もある。例えば上記のテキスト（「梁山伯与祝英台武鳴羅波壮語本」1993）は、同じ壮語によるテキスト「梁山伯与祝英台　柳州壮語本」2012 よりも、漢語による演劇テキストに近い。

今後は、本研究で得た電子テキストをもとに、詳細な比較を行っていきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

① 手塚恵子、古壮字による梁山伯祝英台１－壮族に伝承された怪異物語－、人間文化研究、査読有、30 号、2013、145－176

〔学会発表〕（計　件）

〔図書〕（計　件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
手塚　恵子（TEZUKA KEIKO）
京都学園大学・人間文化学部・教授
研究者番号：60263183

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：